

# 出雲発 リアル「人生ゲーム」

おもちゃの「人生ゲーム」にヒントを得て、出雲市の平田本町商店街が考案した地域おこしの試みが注目されている。通りをすくろくろく見立て、ルーレットに従って人々が店舗をめぐるリアルな「人生ゲーム」。全国各地の商店街から視察が相次いでいる。

## ルーレット回し商店街巡り

平田本町商店街で昨年10月、「まちあそび人生ゲーム」と題した催しが開かれ、約2千人が参加した。特製のルート図とおもちゃの紙幣の束を手に、家族連れが南北2000以上の商店街を行き交った。

ルート図には商店街が描かれ、各商店がすくろくろくのマス目になっている。出発時に一定額の紙幣を受け取った参加者は、店先のルーレットを回

して、数字に応じて近隣の店をはしごする。少しずつ多くの店を巡れるよう、ルーレットの出目は1〜3に限っている。

薬局や書店、青果店に仏壇店……、迎えた店主は試供品を配ったり、品ぞろえを紹介したりする。店によってはじゃんけんや剣玉勝負で紙幣をやりとりする。最終的に残額が多い順に賞品がもらえる。一番人気は商店街2階のスペース

ナック「ぎんざ」。普段は訪れることのない子どもや母親は興味津々。店はカウンタースでジュースを提供した。後日「ゲームに参加して知った」という、夫婦が来店したという。

「これまで縁遠かった店でも、ゲームを通じて自然に足を運び、店の人と会話することになるのがミソ」。ギフト店を営む同商店街振興組合の平野裕二理事長(61)は狙いを

語る。

かつて商店街には40店以上が軒を連ねたが、八百屋や喫茶店、婦人服店などが次々と閉じ、今は21店舗。ゲーム当日は空き店舗に地域の商業高校や専門学校が出店を構えた。

まちぐるみの人生ゲームが始まったのは2013年夏。「イベントを開いても、露店や屋外ステーションに人が集まり、店には誰も入らない」。市

## 活性化期待 視察も

ユニークな試みに注目したのが、全国商工会連合会や日本商工会議所などでつくる「全国商店街支援センター」(東京都中央区)だ。

活性化策のモデルとして全国に普及させようと、新潟市や静岡市で昨年開いた事例発表会の場に平野さんを招待した。新年度から、各地の商店街に平野さんをアドバイザーとして派遣する事業も始めたという。

センターの久保田明・事業統括役は「消費者から見る」と、個人商店は、お店のことを知らないし、何か買わないといけないように入りにくい。皆が知る「人生ゲーム」という仕掛けが、気軽に入っ

てもらいたい機会になっている」という。

山形県新庄市や東京都葛飾区、松山市の商店街がゲーム開催に関心を示して視察などをしていく。

平野さんは仲間とNPO法人「出雲まちあそび研究所」(0853・27・9278)を立ち上げ、イベントを開く商店街にルーレットや紙幣などを貸し出す準備も進めている。

●出雲大社前の商店街で開かれたリアル人生ゲーム。参加者はルーレットを回して次の商店へ進む  
●2015年1月  
●商店街をすくろくろく見立てたりリアル人生ゲームのルート図を出雲まちあそび研究所提供



新たに用意する紙幣の単位は、縁結びの出雲大社にあやかり、お店と人をつなぐ「縁」にする。夢が膨らむように「100万縁」「1千万縁」など高額紙幣を用意する計画だ。(西本秀)